準師範・師範　硬筆検定試験問題（60分）（第94回　平成29・7）

※各問の出典の記入は自由とする。

問一　次の文を、行書で調和よく書きなさい。（ふりがなは書かないこと）（形式は縦・横自由）

蛍　伊藤　静雄

立木の闇にふはふはと
ふたつ三つ出た蛍かな
窓べにちかくよると見て
差しのばす手の指の間を
垂火逃げゆく檐のそら
思ひ出に似たもどかしさ

問二　次の漢詩の書き下し文を、原文のまま行書で調和よく書きなさい。（ふりがなは書かないこと）（形式は縦・横自由）

春望　杜甫

国破れて山河在り
城春にして草木深し
時に感じては花にも涙を濺ぎ
別れを恨んでは鳥にも心を驚かす
烽火　三月に連らなり
家書　万金に抵る
白頭　掻けば更に短かく
渾べて簪に勝えざらんと欲す

問三　次の短歌を、調和よく短冊の形式に散らし書きしなさい。漢字は仮名に変えてもよい。（連綿や変体仮名をいくつか使いましょう）

わたの原　こぎいでてみれば久方のくもゐにまがふ　おきつ白波

（藤原忠通の歌）

問四　次の字句を、筆ペンを使って、楷書と行書で書きなさい。

御祝　寸志　御中元
拝啓　前略　御歳暮
命名　追伸　御霊前

初級　硬筆検定試験問題（50分）（第94回　平成29・7）

問一　次の文字を、形よく書きなさい。（漢字は一行目に楷書で、二行目は行書で）

緑道好物原風景

あさひしおかぜ

問二　次の文章を、漢字は楷書で、調和よく書きなさい。出典も記入すること。

生きとし生けるものにはすべて個性があり、長所がある。しかも、無限の可能性を秘めている。このすばらしい長所、無限の可能性を伸ばしていけば、必ず一隅を照らす人間になれる。青田強の文章より

問三　次の文章を、漢字は楷書で、調和よく書きなさい。出典も記入すること。

人は何より，経験に学ぶ。しかし，経験をどのように生かすか，その学び方次第で，それぞれの人生は大きく変わる。だから，経験そのものが貴重なのではなく，そこから何を，どのように学ぶか，が肝要なのだ。森本哲郎著「経験の教えについて」より

問四　次の九成宮醴泉銘を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨※書しなさい。

※臨書…古典の字形や線などの特徴を捉えて書くこと

（蒸之氣微風）

問五　次の部首にはそれを使った漢字を書き、漢字には部首名を書きなさい。

⺮→□　斤→□　亠→□　糸→□

箱→□　郡→□　輪→□　起→□

初段　硬筆検定試験問題（60分）（第94回　平成29・7）

※各問の出典の記入は自由とする。

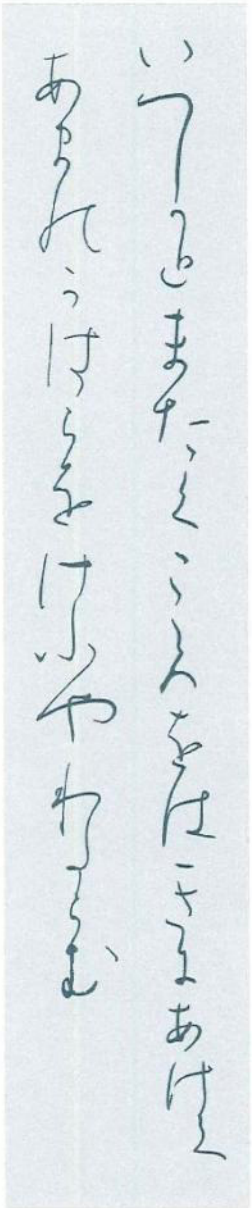
問一　次の文字を、楷書・行書の二体で書きなさい。

四　海　生　春　風

問二　次の曹全碑を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。

（易世載徳不）

問三　次の高野切第三種を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。



（いつしかとまたぐこゝろをはぎにあげてあまのかはらをけふやわたらむ）

問四　次の文章を、漢字は行書、または草書で、調和よく書きなさい。

山椒魚は、杉苔や銭苔を眺めることを好まなかった。むしろそれらを疎んじさえした。杉苔の花粉はしきりに岩屋の中の水面に散ったので、彼は自分のすみかの水が汚れてしまうと信じたからである。あまつさえ岩や天井のくぼみには、一群れずつの※黴さえも生えた。黴はなんと愚かな習性を持っていたことであろう。

井伏鱒二「山椒魚」より

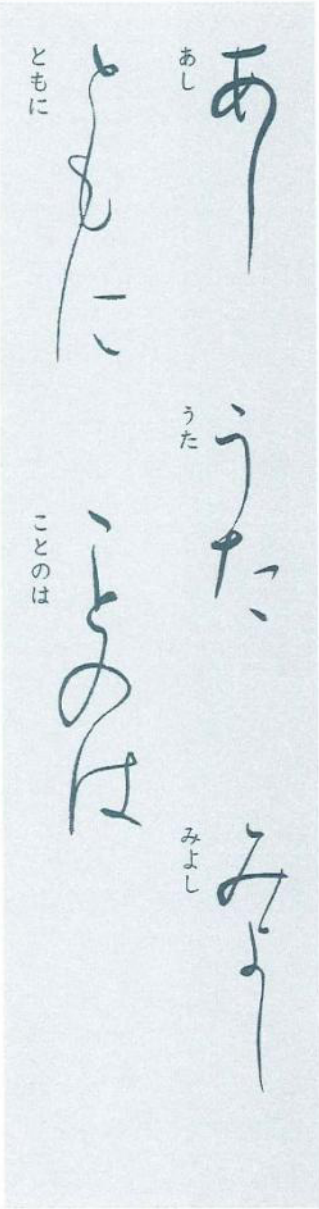
※黴（かび）

問五　次の□内の掲示文を問五解答用紙に、位置・文字の大小等を考えて、フェルトペンか、筆ペンで書きなさい。（縦・横自由、数字は算用数字・漢数字どちらでもよい）

○期　日　平成二十九年七月十七日(月)
○会　場　延岡総合文化センター
○第八回　高校生芸術文化交流会
○主　催　宮崎県高校文化連盟
○後　援　毎朝新聞西部本社

中級　硬筆検定試験問題（50分）（第94回　平成29・7）

問一　次は高野切第三種にみられる連綿です。正しく軽快に連綿しなさい。



問二　次の文章を、漢字は行書で、調和よく書きなさい。出典も記入すること。

書を学ぶということは、古典の名跡によって、その用筆法や造形性、書者の精神を学ぶことである。歴史に残る名筆を学習することを繰り返して技術を向上させ、鑑賞眼を高めて、表現力を豊かにすることである。「書の手帖」より

問三　次の文章を、漢字は楷書で、調和よく書きなさい。出典も記入すること。

世間の大部分の人は，わるくなる事を奨励して居るように思う。わるくならなければ社会に成功しないものと信じているらしい。たまに正直な純粋な人を見ると坊ちゃんだの小僧だのと難癖をつけて軽蔑する。夏目漱石「坊ちゃん」より

問四　次の集王聖教序を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨※書しなさい。

※臨書…古典の字形や線などの特徴を捉えて書くこと

（松風水月未足）

問五　次の平仮名、片仮名の字源（平仮名、片仮名のできるもとの漢字）を、楷書で書きなさい。

うみひらき

オモテナシ

二・三段　硬筆検定試験問題（60分）（第94回　平成29・7）

※各問の出典の記入は自由とする。

問一　次の文字を、楷書・行書・草書・隷書の四体で書きなさい。

夏　雲　多　奇　峰

問二　次の書譜を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。

（而東晋士人）

問三　次の作品について各々の時代と筆者名を漢字で書きなさい。

(1) 九成宮醴泉銘
(2) 争坐位文稿
(3) 十　七　帖

問四　次の文章を、漢字は行書、または草書で、調和よく書きなさい。

池ある所の、五月、長雨のころこそ、いとあはれなれ。菖蒲、菰（こも）など生ひこりて、水も緑なるに、庭も一つ色に見えわたりて、曇りたる空をつくづくとながめ暮したるは、いみじうこそあはれなれ。清少納言「枕草子」より

問五　次の短歌を、調和よく散らし書きしなさい。漢字は仮名に変えてもよい。

白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ（若山牧水）

（連綿や変体仮名をいくつか使いましょう）

問六　次の詩を、問六解答用紙に情趣を考慮しながら筆ペンで調和よく書きなさい。

「落葉（らくよう）」　ヴェルレーヌ　（上田 敏 訳）

秋の日の　鐘のおとに　げにわれは
ヰオロンの　胸ふたぎ　うらぶれて
ためいきの　色かへて　こゝかしこ
身にしみて　涙ぐむ　さだめなく
ひたぶるに　過ぎし日の　とび散らふ
うら悲し　おもひでや　落葉かな